



コミュニケーション

No.88

2014.10月号



Contents

- P2・3 こんにちは!あかちゃん、移動動物の紹介
訃報、飼育動物数
- P4・5 特集1 **大森山動物園ビジターセンターが完成!**
- P6・7 特集2 **シンポジウム「イヌワシの未来を語る」**
- P8・9 飼育レポート
- P9 動物病院から
- P10・11 イベントレポート、今後のイベント
- P12 飼育日誌、お客さまの声、かたばた通信

こんにちは! あかちゃん

今回の「こんにちは!あかちゃん」は、大森山動物園で初めての赤ちゃんや久しぶりの赤ちゃんを中心に紹介します。



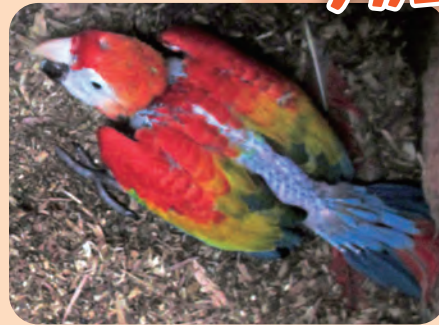
エリマキキツネザル

4月14日にエリマキキツネザルの赤ちゃんが3頭生まれました。残念ながら2頭は死んでしまいましたが、1頭が3年ぶりに育っています。大きさも親とほぼ同じくらいになりました。



ニホンキジ

7月2日、ニホンキジが孵化しました。これまで人工孵化したことはありませんでしたが、自然孵化は初めてです。お母さんキジの後をついて活発に動いています。餌をいっぱい食べて、だいぶ大きくなりました。



アカコンゴウインコ

6月25日、アカコンゴウインコの巣箱で、ヒナの声が確認され、7月11日に直接姿を確認しました。前は冬に孵化したので、親が途中で育てるのを止めてしまい、人の手で育てましたが、今回は親が順調に育てているようです。そろそろ巣箱から出てくるのでは?とワクワクして待っています。

このほかにも、コモンマーモセット(4頭)やフンボルトペンギン(5羽)、フラミンゴ舎(5羽)、サル山(11頭)などたくさんの赤ちゃんが生まれました。タンチョウ、ワタボウシパンシエ、トナカイは飼育レポート(8,9ページ)をご覧ください!



大森山を後にした動物たち

元気でね!



ニホンイヌワシ

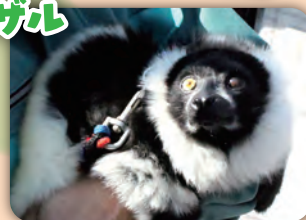
4月7日にニホンイヌワシの信濃とたつ子の間の2番目の卵が孵化しました。このヒナを4日後の11日に盛岡市動物公園のペアに預ける試みを行いました。仮親がちゃんと面倒を見てくれるか心配しましたが、2年前に同じく信濃とたつ子の間に生まれた卵を育て上げた経験を活かし、無事に巣立たせてくれました。また、6月26日にはイヌワシの風輝が長野県の須坂市動物園に旅立ちました。

チンパンジー



3月16日、チンパンジーのゆみのすけを釧路市動物園へ繁殖のために貸し出しました。23年間大森山動物園で暮らし、のり子との間に子どもが生まれました。ひょうひょうとした性格で、担当者をはじめ、女性ファンも多いようです。釧路でも2世が誕生することを祈っています。

エリマキキツネザル



3月31日、エリマキキツネザルのエリコちゃんが名古屋市東山動物園に嫁入りしました。なかなか気が強く、お転婆なサルでした。きっと良いお母さんになることでしょう。

このほか、ケツメリクガメとコモンマーモセットが旅立ちました。

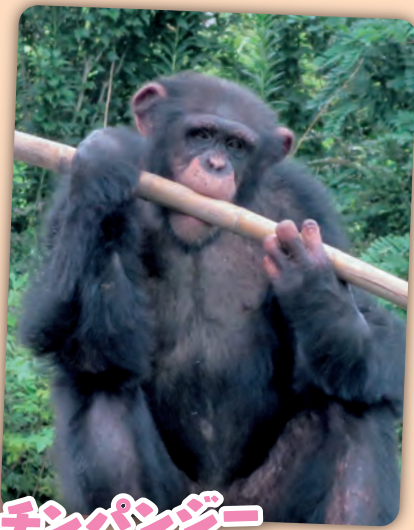
仲間入りした動物たち

よろしくね!



ダイアナモンキー

3月30日に名古屋市東山動物園からダイアナモンキーのメス2頭がやってきました。昨年の9月にライムというメスが死んでしまい、オスのウーロンだけになっていました。希少種であるダイアナモンキーの繁殖を目指しています。ウーロンが2頭のメスを怖がってしまうので、今は、1頭のメスと仲良くなってからもう1頭のメスと同居する予定です。



チンパンジー



ミーアキャット



プレーリードッグ

7月24日のビジターセンターオープンに合わせ、新たな展示施設が完成し、ここに入る動物たちが仲間に加わりました。ミーアキャット5頭とプレーリードッグ8頭です。ミーアキャットは動物業者から、プレーリードッグは盛岡市動物公園からやってきました。どちらも活発に展示場を動き回り、来園者の目に留まっています。



(写真上:ルドルフ、右:雁来と稲積)



トナカイ

那須どうぶつ王国からオスのルドルフと釧路市動物園から2頭のメス(雁来と稲積)が7月中旬にやってきました。秋田の暑さに心配しましたが、すっかり慣れたようで、元気に走り回っています。6月に子どもが生まれたので、トナカイ舎は賑やかになりました。

飼育動物数 ~2014年6月末現在~

類	個数	点数
哺乳類	50種	352点
鳥類	39種	190点
爬虫類	12種	34点
両生類	2種	3点
魚類	3種	61点
無脊椎	1種	16点
合計	107種	656点

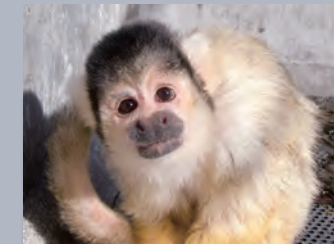
ⓧ 訃報 忘れないよ...



○ホンドザル
勇(ユウ) メス 10ヶ月
昨年6月1日に育児放棄のため、人工哺育になったユウちゃん。NHKのテレビでも放送され、有名になりました。サル山への復帰を目指していた矢先の3月13日に、急性胃拡張症候群のため、突然この世を去ってしまいました。前日まで特に具合の悪いところはなく、あまりに突然のことで、信じられませんでした。



○カピバラ
レン オス 7歳
2007年に埼玉県子ども動物自然公園からやってきました。以前両前足の裏から膿が出て治療をしたことがありましたが、最近は落ち着いていました。2月下旬頃、下痢をしてから食欲がなくなり、毎日皮下輸液などをしましたが残念ながら3月13日に亡くなりました。



○ポリビアリスザル
パパ オス 16歳
パパは1997年6月に大森山動物園で生まれ、育ちました。長い間、ポリビアリスザルの群の中で立派なパパとして頑張ってきました。後から来たオスのゲンちゃんにも紳士的に接していましたが、5月16日、静かに息を引き取りました。



○トナカイ
マオ オス 8歳
2011年7月12日に那須どうぶつ王国からやってきました。雪の動物園等ではリードを付けて園内を散歩する姿に人気が集まりました。6月7日にサクラとの間に子どもが生まれたのを見届けるかのように7月12日に亡くなりました。

大森山動物園ビジターセンター

～大森山公園と動物園が一体となった新たな拠点が完成!～



2014年7月24日、大森山動物園ビジターセンター(以下、ビジターセンター)がオープンしました。ビジターセンターは、大森山公園と動物園が一体となった整備を計画的に進める「大森山自然動物公園整備構想」に基づき整備され、動物園の入園ゲートを中央に配置し、無料休憩コーナー、飲食・売店コーナー、授乳室などを備えた公園エリアと、情報コーナー、多目的コーナーなどを備えた動物園エリアに分かれています(平面図参照)。

また、来園者の利便性を向上させるアプローチ道路や雨天時に対応した大屋根広場、動物をより身近に観察できるウエルカム動物舎などが整備され、大森山を訪れる人たちの拠点となる施設となっています。

① 動物園エリア

秋田杉をふんだんに使用した温かみのある内装で、動物園に入園したかたが休憩できる多目的コーナーや、お子さんが遊べるキッズコーナーなどがあります。

また、情報コーナーでは、イヌワシやゼニタナゴの保護に関する動物園の取り組みなどを紹介した情報ボードのほか、篤志家のご厚意で設置された46インチのデジタルサイネージ(電子看板)で動物の赤ちゃんやイベントなどに関する最新の動物園情報もご覧いただけます。

① 動物園エリア



ビジターセンター概要

- 構造:鉄骨平屋建て
- 延べ床面積:約740㎡
- 工事費
- 本体工事 約3億1,000万円
- 外構工事 約4,440万円

ビジターセンター平面図



② アプローチ道路

センター入口前までバスや車の乗り入れが可能になり、来園者の利便性が大きく向上しました。



② アプローチ道路



ビジターセンター開所式

7月24日の8時45分からビジターセンター正面ゲート前で開所式を行い、センターのオープン市長や来賓、地域のかたたちと一緒に祝いました。式では浜田小学校の皆さんが祝いの「浜田音頭」を元気いっぱい披露してくれたほか、イヌワシ、アカコンゴウインコ、ミニチュアホースといった園内の動物やイメージキャラクター「オモリン」も登場し、セレモニーを盛り上げました。

また、オープニングイベントとして、動物園エリア多目的コーナーでは、シンポジウム「イヌワシの未来を語る」(6ページで詳しく紹介)が開催されたほか、公園エリアでは高校生が撮影した動物の写真や、来園者の笑顔の写真を展示した写真展などが開催されました。



ビジターセンターの特徴



③ ウエルカム動物舎

③ ウエルカム動物舎

動物たちをより身近に感じてもらえるよう、入園してすぐの場所にウエルカム動物舎が新設されました。入園ゲートを入ってすぐ左のスロープを下りていくと、アフリカタテガミヤマアラシやタンチョウなどを間近で観察できるほか、好奇心旺盛なミーアキャットやプレーリードッグたちが皆さんをお出迎えしてくれますよ。

④ 大屋根広場

ビジターセンターでもひととき印象的な大きな楕円形の屋根で覆われた広場です。雨天や降雪時に対応し、イベントなどの開催にもご利用いただけます。



④ 大屋根広場

⑤ 公園エリア

大森山にいられたかたなら、どなたでもご利用になれる無料休憩コーナーや授乳室などがあります。また、本格的なイタリアンジェラートや大森山バーガーといったオリジナルメニューが楽しめる、スイーツ・軽食コーナーができました。動物園や遊園地のオリジナルグッズ、お土産などを販売するZOOショップもあります。グレードアップした動物園にぜひおいでください。

⑤ ZOOショップ



⑤ 無料休憩コーナー





国内でのイヌワシの正確な生息数は分かっていませんが、500～600羽程度とされています。国は種の保存法で保護対象種とし、さらに保護増殖事業計画対象種にも指定するなど、絶滅しないように取り組んでいます。しかし、繁殖成功率の低さもあり、イヌワシの未来は決して明るいものではありません。大森山動物園は、こうしたイヌワシのいのちをつないでいこうと、飼育と繁殖、展示でのイヌワシ理解にも努力を続けてきました。

今回は大森山動物園の新たな試みとして、さまざまな立場の人に動物園にお集まりいただき、イヌワシの未来を語り合っていました。環境省猛禽類保護センター、野生イヌワシを観察するカメラマン、生息地の森林を考える東北森林管理局の専門家、そして大森山動物園のスタッフも加わった総合的なものとなりました。聴衆100人程度の小さなシンポジウムでしたが、他機関と連携が始まる大森山動物園の新たな第一歩になるのかもしれない。

(シンポジウムコーディネーター 園長 小松 守)

シンポジウムは環境省東北地方環境事務所次長西村学氏のあいさつで始まり、4人のパネリストがそれぞれの分野から講演しました。

トップパネラーは環境省猛禽類保護センターの内藤小容子自然保護官、長船裕紀自然保護専門員です。お二人からは猛禽類全般の体の特徴や生態系の地位、生息地と食性、狩りの仕方などの詳しいイヌワシの生態について、1年の生活サイクルを交えた説明がありました。この中では、イヌワシの繁殖成功率が徐々に下がってきていること、さらに東北のイヌワシについて見てみると、自然豊かな東北の森でさえも全国の成功率と比較して良くないことが分かりました。この要因として、工事等による環境破壊が考えられがちですが、逆に林業や牧畜業の不振で人の手が加わらないことにより、狩り場がなくなり、餌不足でヒナが育たない例や落石や暴風などにより巣が途中で落ちてしまうといった自然要因も示されました。イヌワシを守るために、法律を整備したり、保護増殖事業計画を立てるなど、国が行っている仕事についても紹介がありました。

次に、山形県内で野生のイヌワシを長年にわたり観察を続けている、山形北部稀少ワシタカ研究会会長今井正氏が撮影した野生イヌワシの貴重な映像が上映されました。映像と今井氏による解説は、今井氏のイヌワシに対する愛情が感じられ、大空を飛翔する姿や厳しい自然の中でたくましく暮らしている姿は、イヌワシの尊厳に触れられるような素晴らしいものでした。

続いて、大森山動物園からは、イヌワシ飼育の簡単な歴史や飼育下個体群の現状とその課題解決のための計画推進会議などについて、紹介しました。さらに、動物園が域外保全としてこれまで取り組んできた飼育や繁殖についての具体例、孵化したヒナを全て育てるためのローテーション育雛法、また有精卵や孵化数日のヒナを長距離移動して仮親に育てさせる取り組みなどを紹介しました。これらは野生下のイヌワシをバックアップするために必要な技術であることを訴えました。

最後に、東北森林管理局課長補佐庄司卓矢氏から、生物多様性の保全や地球温暖化防止、林産物の供給、水源のかん養、レクリエーション等、森林が持つ多面的な機能等について説明がありました。日本は世界有数の森林国で、世界平均を大きく上回り世界第3位の森林率を誇っていること、秋田県(国内14位)と山形県(国内16位)は世界第1位のフィンランド(72.9%)とほぼ同じ森林率(72%)であることが示されました。しかし、日本の木材自給率は28%しかなく、このままでは森林の多面的機能が低下するだけでなく、農山村地域の活力が低下してしまいます。これらを解決するためには間伐が必要で、土砂崩れ防止、二酸化炭素吸収率の維持、病害虫予防等の観点からも重要であることが分かりました。また、間伐はイヌワシの狩り場を確保する上でもとても重要であること、さらに、間伐もただ適当に間引くのではなく、列状に行うことがより効果的であるとの説明もありました。

基調講演の後は、活発な質疑応答となり、全てが終わった後、イヌワシの「風」とオモリン、わっしー君と参加者皆さんで記念写真を撮りました。

全体を通して、イヌワシとはどういう動物か、イヌワシを守るために様々な人たちがいること、イヌワシを守るとは豊かな森を守ることであり、さらには、適切に森林を管理することの重要性などが参加者に伝わったと思います。

動物園としては、これらのメッセージを来園者はじめ多くの人に伝え、野生動物を身近に感じ、自然との関わりについて思いをはせられるような工夫をしていきたいと感じました。

(飼育展示担当 主席主査 三浦 匡哉)



今井会長の講演



イヌワシの「風」



シンポジウムの様子



イヌワシ「風」とシンポジウム参加者



飼育レポート

大森山初! ワタボウシパンシエの人工哺育

飼育展示担当 関谷 藍子

5月18日にワタボウシパンシエのオスの赤ちゃんが生まれました。名前のとおり綿帽子のような真っ白い毛が頭に生えた小型のサル仲間、絶滅危惧種に指定されています。

生まれた直後、母ザルが自分の仔だと認識できずケガを負わせてしまったため、やむを得ず人の手で育てることにしました。しかし、大森山動物園でパンシエの人工哺育を行うのは初めてのことで、母ザルが生まれていしかわ動物園のかたにアドバイスをいただいたり、担当者たちで知恵を出し合ったり協力しながら取り組みました。

生まれたときの体重はわずか37.5g。人の片手に全身がすっぽり収まってしまうほど小さく、毛がほとんどない黒っぽい体をしていました。ケガに負けず、たくましく育ててほしいという願いを込めて、「ジャングル大帝」の主人公からとって、「レオ」と名付けました。願いが通じたのか、レオはひどいケガをしていたにも関わらず、初めから本当によくミルクを飲み、鳴き声も大きくやんちゃでした。担当者の指を握る力も手のひらサイズの動物とは思えない力強さで、生きようとする意志をひしひしと感じました。



授乳の様子



27日齢

授乳は、初めの1か月は1日6回、朝6時から夜10時頃まで2時間置きに行いました。ミルクを一度にたくさん口に入れてしまうと、むせて窒息死してしまうこともあるため、注射器で一滴ずつ慎重に与えました。また、半分以上欠損してしまった尾と左後肢のケガもなかなか状態が安定せず、こまめに治療を続けました。

現在は、保育器からケージに引っ越し、ミルクも卒業、大人と同じようにバナナやリンゴなどの果物を自分で持って食べられるようになりました。心配されていた短い尾や中指しかない左後肢も器用に使って、元気に跳び回っています。頭の白い毛も長く伸びてきて、体も日に日に大きくなってきました。赤ちゃんの時期は残りわずかですが、ぜひ会いに来てください!



生後8日目仔の体重測定の様子(心配そうに見守る母サクラ)

て起立させ子牛用代用乳を飲ませました。また、母サクラの乳を絞り哺乳瓶で初乳も与えました。翌日の夕方には自力で乳房から授乳できるようになりましたが、代用乳の人工授乳も念のため1週間継続し、朝夕の体重計測をしながら仔の成長を見守っていました。仔は出産当日の体重(5.05kg)から計測毎に増え続け、10日後には8.25kgになるなど順調に成長を続けています。サクラが仔の授乳を拒絶するようになったこともあり、生後35日目くらいから親と同じ餌を食べるようになっていきます。

8年ぶりとなるトナカイの繁殖

飼育展示担当 柴田 典弘

6月7日、大森山動物園では8年ぶりとなるトナカイの赤ちゃんが誕生しました。午前10時、同僚から「観覧通路沿いで分娩が始まっている」との連絡を受け急行したところ、母サクラ(メス9歳)は既に仔の両前肢が出ている状態でした。間もなく生まれそうであったため、私もお客さまと同じ場所でカメラを構え出産を見守ることにしました。そのわずか5分後、一旦座って再び立ち上がると同時に無事出産し、お客さまの歓声と拍手に包まれました。直後から仔を舐めまわすなど、良好な関係性が見取れましたが、今年の秋田は6月に入ってから30℃を超える日が続いていたこともあり、サクラは出産により余力がなくなった様子でした。懸命に仔を立たせようと促した後、すぐに座りこんでしまうを繰り返していましたが、気温がさらに上昇し、このままでは母子ともに危険な状態になると判断、出産から1時間30分後に仔を介添えし

タンチョウのヒナが2羽孵化しました

飼育展示担当 館岡 幸枝



左:孵化後10日齢のヒナ(1号) 中央:オス親
右:孵化後8日齢のヒナ(2号)

順調に成長している2羽
(奥:2号、手前:1号)

ようやく雪も溶け、春に向かいはじめた5月。タンチョウに新しい2つの命が誕生しました。タンチョウは一度に1~2個の卵を産み、オスとメスが交代で抱卵し、約1か月程で孵化します。今年は2個の卵を抱いていましたが、どちらの卵も無事に孵りました。

孵化したてのヒナは手のひらに乗るほど小さく、4月から担当になったばかりの私は大きく育てられるのかと不安になりましたが、1週間もすると2羽は軽快に展示場内を駆け回るようになりました。しかし、日が経つにつれて1番目に孵化したヒナ(以下1号)と、2日遅れで2番目に孵化したヒナ(以下2号)に体格の差が出てきたのです。1号

は母親からしっかりと餌をもらっていたので順調に生育していましたが、2号は1号よりも成長のスピードが遅く、力負けしてしまいうまく餌をもらうことができない状態でした。

このままでは2号は死んでしまう恐れがありました。野生下では餌が限られているため、結果的に強いヒナのみ育つことが多いのですが、ここは動物園、なんとか2羽ともに生育させたいと強く願いました。食べやすいミズなどを捕ってきては与える工夫や、毎日体重を計測し餌をどれだけ食べているのかをチェックするなどきめ細やかな気配りをしました。そのかいあってか、少しずつでしたが2号の体重は増え続け、自力で採食できるようになったばかりか、今では1号よりも大きくなるなど順調に成長しています。一時は最悪の状態も考えてしまうほど弱々しかった2号。その生きようとする力には感動を覚えました。大森山動物園にご来園された際は、ぜひタンチョウの親子の様子をご覧ください。

+ 動物病院から 懸命のリハビリ ~ 娘のゆりも応援 ~ 獣医師 高橋 拓



床ずれ治療後の陸



後ろ足を吊って展示場を散歩

2014年3月、レッサーパンダの「陸」が左足に力が入らないと獣医師に無線が入りました。最初は、軽度の脱臼かと思いましたが、徐々に両方の足に力が入らなくなっていきました。神経疾患を疑い治療しましたが、麻酔をかけ、レントゲンを撮ったところ脊椎症を疑う所見が確認できました。その後も継続し治療を続けましたが、完全な回復は望めませんでした。さらに治療中、両方の腰骨のところが床ずれを起こし、皮膚の欠損が大きくなってしまいました。そのため皮膚が再生するような薬を使いおむつをはかせ、両方の腰に堅い床が当たらないようにふかふかのマットを敷いてケアし、日々マッサージをしたり、後ろ足を吊って歩行したりリハビリを続けたところ、右の後ろ足を若干動かすことができるようになりました。その結果、右の500円玉大の床ずれはき

れいになりました。現在は、左の床ずれの治療を行っています。

「陸」は2013年6月26日にメスの「ゆり」を生んだお母さんです。治療の時は娘の「ゆり」も心配そうにいつものぞきに来ます。また皆さんにお見せすることができるように、「ゆり」と一緒に遊ぶことができるように、今後の「陸」のケアについて担当飼育員と協力し、一番良い方法を探しているところです。



お母さん、大丈夫?

母を心配する娘のゆり

「おもてなし」を届ける移動動物園

飼育展示担当 中井 朱

ふるさと秋田の活性化と、大森山動物園のイベントPR、そして、動物たちの魅力を多くのかたに伝えることを目的に、今年も「移動動物園」を開催しています。

まずは4月12日(土)「春の便」、地域のプロバスケットボールチーム「秋田ノーザンハピネッツ」の依頼を受け、公式戦試合前に、秋田県立体育館前の広場で開催しました。事前にハピネッツや動物園のホームページでPRしていたこともあり、観戦ではなく「動物たちに会うため」体育館前広場に来場されたお客さまも見受けられました。当日、少し肌寒い気候でしたが、時折、顔を見せる太陽の応援もあり、573名のお客さまに、動物たちやオモリンとの楽しいふれあいをお届けできたようです。

続いて6月29日(日)「夏の便」、エリアなかいち・にぎわい広場へのお届け。開催場所が狭く、参加した動物は一種類でしたが、動物園の人気ランキング上位でもある



動物たちもハピネッツを応援



ペンギンと記念撮影
(国文祭100日前イベント)

フンボルトペンギンの効果は大きく、行列ができるほど盛況で、224名のお客さまは、ペンギンとの記念撮影に満足げな様子でした。また、開始直前まで降っていた雨も止み、動物園のイメージキャラクター「オモリン」も登場! 第29回国民文化祭・あきた2014秋田市100日前イベントの盛り上げに貢献し、併せて、動物園ビジターセンターのオープンもPRできました。

現在のスタイルで3年目を迎える移動動物園ですが、お届けすると思われる「冬の便」に備え、より効果的な方法を模索したいと考えています。

イベント

レポート

親と子のふれあい写生大会 7月26日、27日



「えさをたべらるる」

仁井田幼稚園 内出絢華さん(3歳)



「ぼくを見つめているよ」

寺内小学校4年 斎藤空知さん



「ギロリッ! ワシミズク!」

御所野小学校2年 畠山大羅さん

7月26日(土)、27日(日)の2日間、第37回親と子のふれあい写生大会を開催しました。初日は最高気温34℃の真夏日で、翌日は時折雨が降るあいにくの天気になりました。それでも個性あふれる力作が466点も提出され、秋田市造形教育研究会による審査のもと、入賞作品107点を決定しました。

8月24日(日)には、ビジターセンター大屋根広場で表彰式が催され、入賞者に賞状の授与と副賞の贈呈が行われました。

サマースクール 8月1日、2日

動物園で一番歴史のあるイベント、サマースクールを8月1日(金)、2日(土)に開催しました。今回で40回目となる今年のテーマは、「われら生き物調査隊! 動物園の仕事を探れ!!」。2日間で合計32組74名のかたが参加され、動物の世話を通じて生命の尊さや動物の生態などを学びました。

午前は複数のグループに分かれて、動物の部屋の掃除や餌作り・給餌など、普段は体験できない飼育作業に汗を流しました。また、午後からは2つのグループに分か

れ、園内の塩曳淵に生息する外来種「アメリカザリガニ」を釣ったり、動物園が栽培している飼料作物「スタックス」の刈り取り作業を行いました。

両日ともに厳しい暑さの中での体験となりましたが、この体験が動物への思いやりの気持ちが育まれると同時に、夏休みの楽しい思い出として残ってほしいです。



どうぶつサイエンス 5月22日

動物の不思議について学ぶ自然科学学習館との共同イベント。今回のテーマは～アルヴェとミルヴェの「命」のコラボレーション「骨のひみつをさぐろう」～でした。

午前中は自然科学学習館でワークショップを行い、午後から動物園にて動物を間近で観察し、実際にいろいろな動物の骨を触ってもらい骨の仕組みについて学びました。参加者は27名で、ペンギンやカピバラの歩き方をまねしてみたり、フラミンゴやコウノトリの足の曲がり方を熱心に観察するなど、子どもたちは楽しそうにしました。また、キリンの首の骨を順番に並べてみたり、チン



ペンギンのからだの秘密を学ぶ



人とキリンの骨を比べてみよう

パンジーの頭の骨と人体模型の頭の骨を比べてみたりしました。ペリカンの太ももの骨を持って飛ぶために進化した骨の軽さを実感すると、子どもたちだけでなく親たちも熱心に話に聴き入っているのが印象的でした。

春の動物ふれあいフェスティバル 6月8日

大森山動物園人気イベントの春の動物ふれあいフェスティバル。当日は天候にも恵まれ、たくさんのお客さまが訪れました。

大好評のどうぶつパレードには、ミニチュアホースやフンボルトペンギンなど9種類の動物に加えて、動物園イメージキャラクター「オモリン」や大森山ゆうえんちの「エクル隊長」、「スグッチ」、「ニヤジロウ」も参加。さらに、子育て支援団体「チェリッシュ」の呼びかけで集まった親子46組が動物に仮装しながら行進し、パレードを盛り上げてくれました。



オモリンや動物の仮装をした子どももパレードに参加



ペンギンたちの行進

このほか、動物園裏側探検や「ミルヴェンジャー7」のヒントタイムが人気のウォーククイズ、獣医さんになりきる吹き矢体験などこの日ならではのイベントや、人気のまんまタイム、エサやり体験、なかよしタイムなどたくさんのイベントを行いました。

夜の動物園 8月14~17日

夏の大人気イベント「夜の動物園」を今年も開催しました。今年で22回を数える通称「ナイトズー」は、昼間とはひと味違う、夜の動物たちとの対話を楽しむ夏の夜のお楽しみとして市民の皆さまに定着したようです。

15日(金)には大森山動物園のヒーロー「ミルヴェンジャー7」のショー、16日(土)には大森山動物園応援会が主催するミニコンサートが開かれ、動物園が一層華やかになりました。初めての夏を迎えるビジターセンターの大屋根広場で開かれたミニコンサートには、スチールパンバンドの「ばんだらけ」の皆さんや、秋田を拠点に全国に向けて活動しているギタリスト・小野リカルド輪太郎さん、フルート奏者・石川真由子さんが登場。夏の夜にぴったりの、透明感のあるのびやかな音色が大森山に響き渡り、会場を優しく包み込みました。また、似顔絵師とらまるさんが、墨を使って次々にお客さまの似顔絵を描き出し、会場

は大賑わいとなりました。

16日には、チンパンジー「のり子」の36歳の誕生日会も催され、飼育員ら鉄人シェフが腕を振るったごちそうに舌鼓を打つ姿に、展示場を取り囲むお客さまも大喜び。期間中、ラインナップが充実したどうぶつ解説やまんまタイムを巡っているうちに、あっという間に時間が過ぎてしまったように感じたかたも多かったのでは?

初日は天候に恵まれたこともあって、開園時間を延長するほどの大盛況。2日間雨が降ったものの、4日を通じて1万1,000人を超えるお客さまにご来園いただきました。



ミルヴェンジャー7のショー



美しい調べが夜の動物園を彩る



ごちそうを頬張る「のり子」

今後のイベント

11月22日(土) いい夫婦の日イベント
11月22日の「いい夫婦の日」にちなみ、ご夫婦だけで動物園をお楽しみいただく特別なイベントです。(イベントへの参加には事前応募が必要です。)

11月30日(日) さよなら感謝祭
通常開園最終日に、動物の慰霊とお客さまへの感謝の気持ちを込めて「さよなら感謝祭」を開催します。当日は、大人520円で入園できます。(他の割引との併用はできません。)

雪の動物園
2015年1月4日(日)から2月28日(土)
幻想的な銀世界と、その中で過ごす動物たちの表情をぜひご覧ください。

- 1/6 シロフクロウ
- 1/8 ベンガルヤマネコ
- 1/11 ファンボルトペンギン
- 1/17 アカカンガルー
- 1/26 シンリンオオカミ
- 1/29 アフリカゾウ

- 1/31 シンリンオオカミ
アメリキリン
- 2/8 シンリンオオカミ
- 2/9 ニホンイヌワシ
- 2/21 ニホンイヌワシ
- 2/22 ミーアキャット
- 2/24 コモンマーモセット
モモイロベリカン
- 2/25 ニホンイヌワシ
コクチョウ
- 2/26 ボニー
- 2/27 ハクビシン
シンリンオオカミ
フラミンゴ
- 3/1 ニホンイヌワシ
- 3/3 ライオンラビット
アフリカゾウ
- 3/5 アフリカタゲギマアラシ
- 3/6 ニホンイヌワシ
ツキノワグマ
- 3/8 ファンボルトペンギン
- 3/10 ファンボルトペンギン
- 3/12 シバヤギ
- 3/13 カピバラ
- 3/14 コモンマーモセット
- 3/15 ニホンザル
- 3/16 チンパンジー
- 3/21 レッサーパンダ
- 3/23 アムールトラ
- 3/27 チンパンジー
- 3/29 ワピチ
- 3/30 ダイアナモンキー
- 3/31 ファンボルトペンギン
トナカイ
エリマキキツネザル
- 4/1 モモイロベリカン他
ニホンイヌワシ
- 4/5 ホンドリス
シンリンオオカミ
タンチョウ
- 4/7 ニホンイヌワシ
- 4/11 ニホンイヌワシ
プレーリードッグ
- 4/14 ニホンイヌワシ
- 4/20 ニホンイヌワシ

♂(ムース)♀(チップ)を繁殖のため予備舎へ移動。
♀(ダイヤ)の死亡を確認。
♂(知多)×♀(左右紫黒)ペア抱卵行動を確認。
室内に体長 10 センチ程の子どもが落ちており、死亡を確認。
交尾行動を確認。
動物の移動および収容方法を変更して実施。1頭の移動を担当職員全員で作業することとした。
寢室に産箱を設置。
♂(カンタ)体重測定実施、620 kg。
産箱に監視用モニターを設置。
♂(風斗)×♀(西目)交尾行動を確認。
♀(たつ子)産卵を確認。
新規個体♂2、♀3計5頭を搬入。
♀(もも)2頭を出産、定期的な授乳行動を確認。
全羽、羽の桃色が鮮やかに色づき、額の膨らみが目立つ。
♀(たつ子)2卵目産卵を確認。
4羽の性別判定実施、♂3、♀1と判明。
♀(アルファー)左右の後肢削蹄実施。
♂(ツキミ)×♀(イチコ)交尾行動を確認。
出産準備のため室内収容。
チリー2組、ヨーロッパ6組計8組の営巣行動を確認。
♀(たつ子)3卵目産卵を確認。
2頭の産出と、定期的な授乳行動を確認。
激しい追及及びマウント行動を確認。
♂(リュウ)×♀(ワヤ)交尾行動を確認。
♀(西目)2卵目産卵を確認。
冬眠終了、♀ヘリゴを給餌。
1羽孵化を確認(♂(右オレンジ)×♀(左青黄)ペア)。
1羽孵化を確認(♂(右オレンジ)×♀(左青黄)ペア)。2羽目。
インプラントモジュールを埋め込む。
♂(レン)死亡を確認。
♀(サツキ)×♀(真桜)をケージ越しに見合い開始。
♀(ユウ)死亡を確認。
♂(ゆみのすけ)釧路市動物園へ搬出。
♂(ユウタ)×♀(陸)交尾行動を確認。
♀(アシリ)発情行動を確認。
♂(J太郎)、伊豆シャボテン公園より搬入。
♂、左角落角。
♀2頭、名古屋市東山動物園より搬入。
3/27、3/28 孵化個体を人工育雛による管理にする。
♀、右角落角。
♀(エリコ)1頭、名古屋市東山動物園へ搬出。
春開園に向け、フライングケージ鳥類放鳥。
♂(信濃)×♀(たつ子)第1卵、逆子で自然孵化できず死亡。
性別不明5頭繁殖。
最終交尾日から 65 日目、出産等行動の変化見られず。
1卵目産卵確認。
♂(信濃)×♀(たつ子)第2卵孵化確認。
4/7 孵化個体を盛岡市動物公園へ移送。
盛岡市動物公園より新規個体8頭搬入。
性別不明1羽羽添え孵化。♂(信濃)×♀(たつ子)
♂(信濃)×♀(たつ子)の第3雛を♂(風斗)×♀(西目)ペアへ育雛させるため移動。

- 4/25 シンリンオオカミ
- 4/29 ハクビシン
- 5/3 ホオアカトキ
- 5/7 カピバラ
ファンボルトペンギン
- 5/9 タンチョウ
- 5/10 チンパンジー
- 5/11 ニホンザル
タンチョウ
- 5/12 シナイモツゴ・ゼニタナゴ
- 5/13 ビューマ
- 5/16 ボリビアリスザル
- 5/18 ワタボウシバンシェ

- 5/19 モモイロベリカン
- 5/23 マーコール
- 5/26 チンパンジー
カピバラ
- 5/27 ホンドタヌキ
- 5/28 ノジロオオカキザル
- 5/29 ジャンボウサギ
- 5/30 マーコール
- 6/3 ヨーロッパフラミンゴ
ファンボルトペンギン
ニホンキジ
- 6/5 アフリカゾウ

- 6/7 トナカイ
- 6/9 マーコール
- 6/13 フラミンゴ
- 6/17 ワタボウシバンシェ
- 6/19 ニホンザル
- 6/24 シナイモツゴ
- 6/25 ツキノワグマ

- アカコンゴウインコ
- 6/26 ニホンイヌワシ
- 6/30 ヨーロッパフラミンゴ
- 7/2 アフリカゾウ
ファンボルトペンギン
- 7/9 トナカイ
- 7/11 トナカイ
- 7/17 アフリカタゲギマアラシ

- ワタボウシバンシェ
- ミーアキャット
- プレーリードッグ
- 7/20 ニアメリカオオコノハズク
- コモンマーモセット
- 7/22 シバヤギ
- 7/26 アカカンガルー

- 7/27 トナカイ
- 7/28 クジャク
- 7/29 アカカンガルー
- 7/31 コモンマーモセット

今日から♀も屋外展示再開し、2頭展示。
♀(モコ)と♀(ツキミ)の闘争あり、鼻先より出血あり。
♂♀交互に抱卵行動確認。
全頭体重測定実施。
性別不明2羽孵化確認。
性別不明1羽孵化。
♂(J太郎)、始めて室内展示場で展示。
今年4頭目出生確認。
性別不明1羽孵化。2羽目。
性別不明各1匹死亡確認。
交尾行動確認。
♂(ノバノバ2)死亡確認。
性別不明2頭出生確認。1頭は発見時死亡、もう1頭は親の育児放棄のため人工哺育とする。
♂(赤)×♀(黄)交尾行動確認。
性別不明2頭出生確認。
♂(J太郎)と♀(ノリコ)お見合い実施。
4頭同居実施、1回目。
性別不明2頭出生確認、いずれも食害にあう。
♀1頭出生確認、♀(ナナエ)の仔。
♂(愛称：格さん)1頭死亡確認。
性別不明2頭出生確認。
産卵、抱卵確認。1日目。
♂(南知多No39)1頭死亡確認。
検卵実施、11個すべて有精卵であることを確認。
糞臭試験実施。盛岡市動物公園個体(♂♀)の糞の臭いを当園♂♀へ嗅がせ反応を観察。
♀1頭出生確認。
♂1頭出生確認。
孵卵器へ4卵入卵、経過観察。
人工哺育30日経過、体重62.3g 元気で力強い鳴き声確認。
野生ザルが園内サル山周辺に出没。
シナイモツゴの稚魚を確認(繁殖)▶
♂(稔)に対し、インプラントモジュール埋め込み作業のため麻酔下で処置。
雛の声を確認。♂(ガラ)×♀(クミン)。
♂(風輝)、須坂市動物園へ搬出。
性別不明1羽孵化確認、♂(両アルミ右太)×♀(右黒)ペア。
糞臭試験2回目実施。
人工育雛個体、ペンギン舎予備舎へ移動し管理する。
♂1頭新規個体搬入(愛称ルドルフ：那須どうぶつ王国より)
♀2頭新規個体搬入(釧路市動物園より)
新施設ウエルカム動物舎へ♂(ハリマキ、おこげ)、♀(ラーメン)の3頭を移動、展示。
人工哺育60日経過、体重103.8g 元気に保育器内を走り回る。離乳食にすりおろしリンゴやバナナを給餌。
新施設ウエルカム動物舎へ♂2頭、♀3頭の計5頭移動、展示。
新施設ウエルカム動物舎へ♂8頭移動、展示。
性別不明1羽、動物交換により搬入。
♀(ツクシ・真桜)動物交換により搬入。
♀1頭出生確認、(シロ)の仔。
室内で仔が落ちているのを確認(♀体重70g、推定2ヶ月)。
母親を特定し育児囊へ戻す(母親：サキコ)。
♂(マオ)死亡確認(年齢9才)。
全羽にマイクロチップ埋め込み作業実施。
♀(サキコ)の仔、7/26に育児囊へ戻してから仔の動き確認。
性別不明2頭出生確認、母親(もも)。



お客様の声

★アカコンゴウインコをみた5歳くらいの女の子から「このインコは羽に色を塗っているの?」と質問されました。

★さるっこの森前で、4歳の子どものつれた母親が、息子がキリンの足はなんでケガをしたのか知りたいとこのことで声をかけてくれました。小坂町からいらしたそうで、質問に対しては、キリン舎にて直接キリン担当の職員に対応してもらいました。帰る際に、わざわざお礼を言いに来るっこの森まで寄っていただき、とても満足された様子でした。

★フクロウの動物解説を聞いていただいたご家族より「岩手からフクロウを見たくて来ました。こんなに近くで見ることができて感激です。本当に良かった!また見に来ます。」また、フクロウのペリットを見てみたいというご要望があったので、今日のペリットをお見せしながら、フクロウの食性などについてお話をしました。

★ワピチの餌やり体験で、「動物を至近距離で観察できた!」「普段入れない所に入れた!」「落角した角に触ることができた!」など、さまざまな感想をいただきました。

★ビーバープール清掃中に、親子の来園者に声をかけられました。「盛岡から初めて来たんだけど、大森山は変わった動物が多いですね!動物との距離がとても近くてビックリしました。いつもは盛岡の動物園に行くんだけど、今日は娘とふらっとここに来てみました。とてもいい!興奮しちゃいました!天気がいまいちな?と思ったけど、本当に来て良かった!と興奮しながら話していました。

★「マーコールの赤ちゃんがいることが展示場の掲示等で知らされていないようなのでもったいない。せっかくのかわいい様子をもっと多くの人に見てもらえた方がいいと思うので、アピールするべきでは?」とのご指摘をいただきました。

かたばた通信 ~編集後記~

初めてコミュニケーションの編集に参加しました。紙面の特集や構成、執筆者、写真を決める「編集会議」では、各職員が飼育・展示している動物や実施したイベント内容を吟味しながら話し合います。コミュニケーションを手にとった方に伝えたいこと、これから動物園へ訪れようとする方に紹介したいことなど、担当者の思いはさまざまです。今年は正面ゲートに休憩施設や情報発信機能などを備えたビジターセンターやウエルカム動物舎がオープンし、お客さまを迎える体制が一層整いました。それらを集めた本誌が、これから大森山動物園をもっと楽しんでいただくための一助となれば幸いです。(柏谷)

